

豊南小学校・校長室だより (家庭数配布)

令和3年(2021年)5月7日

発行 中森啓之

何気ない行動にその人の人間性が…。(その2)

前回は、ある先生の行動を紹介しました。今回は、いつも感心していた6年生のある子を紹介します。毎朝、私は警備員さんと2人で校門に立っていますが、その子は、私たちの挨拶に対して、「おはようございま〜す。おはようございま〜す。」と必ず2回返してくれるのです。この子と廊下ですれ違った時、「あなたはいつも2回挨拶を返してくれるよね。感心していたよ。」と声をかけました。そして、「2回言うのは、私と警備員さんの2人がいるからかな？」と聞きました。すると、やはりその通りで、「2人立っているから2回挨拶をしないと気がすまない。」のようなことを言っていました。2人はすぐ横に立っているのだから、普通に考えれば、挨拶は1回で十分なところですが、2人いるから2回の挨拶が必要だと思うところに、目の前の1人の人を大切にしようというその子の姿勢、人間性が表れているなど感じました。

ちなみに、昨年度に続いて本校の教育目標に「1人を大切に」を私は入れています。大きなことを言うのは簡単です。しかし、大切なのは、自分のすぐ目の前にいる1人の人を大切にできるかどうかです。それが少しずつ広がり、大きなうねりにもなるのだと思います。前回のある先生の行動でもそうですが、誰にほめられるわけでもない、また、絶対にやらなければならないことでもない、しかし、こんなことが何気なくできるような子どもたちに育ててほしいと願っています。

◇大谷選手から学ぶこと

メジャーリーグで大谷翔平選手が大活躍です。ご存知の通り、大谷選手はピッチャーとして160キロ超のボールを投げ、バッターとしてもホームランを連発。こんな離れ業、誰にも真似できません。しかし、特筆すべきは、その人間性も素晴らしいということです。誰もやったことがないことをやっているのに、偉そうにしないところ。また、相手を蹴落とすことは考えず、自分の向上だけを目指す姿勢。また、様々な場面で、人のよさが伺えるエピソードを聞きます。野球の技術だけではなく、そんな人間性も含めて、チームメイトやファンから愛されているのです。ここで私が言いたいのは、160キロのボールを投げることやホームランを打つことは、生まれ持ったの才能が大きく影響するので、誰もができることではありませんが、その人間性は、本人の気の持ち方次第では真似できますよね、ということです。自分の周りには、素晴らしい人間性を持つ人が、絶対にいるはずですよ。その人を手本にすればいいのです。いっぺんに変わることは難しいです。でも、あきらめたら何もできません。少しずつでいいです。そうすれば、「ちりも積もれば山となる」で、10年、20年後には大きく変わっているはずですよ。

